認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼（れんぎ）協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【昆明代表処】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468　Fax.+86-871-63320658
http://www.facebook.com/NPO.JYFA　@jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　昭和情報プロセス㈱　㈱技術評論社／デザイン Hope Company

Japan Yunnan Friendship Association
彩雲の南
第81号
発行日　2022 年（令和 4 年）9 月 15 日
会報

25の小さな夢基金

第14期生卒業式 156名が卒業
それぞれの道へ羽ばたいていきました

「25 の小さな夢基金」卒業式は、例年通り今年も 6 月にオンラインで開く予定でしたが、新型コロナウィルス感染予防と昆明市女子中学のスケジュールの関係で叶いませんでした。三年間、物心両面で春蕾生を支援し、成長した姿を一目見ることを心待ちにされていた方も大勢いらっしゃったはずです。皆様のご理解をお願いするとともに、この場を借りて深くお詫び申し上げます。卒業式当日の様子について昆明代表処職員の徐芸さんから報告が届きました。

希望を胸に旅立つ春蕾生 156 名
支援と励ましを知ったコロナ禍での高校生活

1908 年の設立以来、昆明市女子中学は数多くの素晴らしい女性人材を輩出してきました。今日また新たな卒業生が、困難を恐れず歩んだ先輩の歩みを引き継ぎ、若者としての責任を担おうとしています。今年の卒業生も、里親サポーターの皆様をはじめ、日本雲南聯誼協会や中国銀行、などから夢を実現するために支援を受けてきました。今後、女子中学の卒業生たちは、ここで培った信念と強さを胸に、歳月を書とし自らを筆として、努力する人生の物語を記していくことでしょう。

卒業証書を手にし嬉しくもあり寂しくもあります

最後の先生の言葉に・・・・

2022 年 6 月 30 日、昆明市女子中学で「優しい別れ」が始まりました。卒業式は「成長に感謝し未来を抱く」をテーマに、学校幹部と 3 年生の教師が卒業を祝いました。張小穎先生が開式を宣言し、5 名の卒業生が司会者を務めました。

在学中にコロナ禍を経験し、振り返れば 3 年間の長い試練でした。数え切れない笑いと涙、数え切れない「難しすぎる」と「きっとできる」が交錯しました。前を向いて困難を乗り越えた後、朝日が昇り、ようやく夢と時代と共に進むのです。三年間の雨風の道のり、探求、試練、奮闘。卒業生にとって、この素晴らしい三年間は、人生の一番大切な思い出になるでしょう。

別れに際し、金先生は学校を代表してあいさつし「これから常に感謝の気持ちを持ち、卒業を成長の新たな出発点としましょう。女子中での永遠の友情を記憶のバッグにしまい、時折、前進する力を取り出してください。卒業式は人生の一里塚であり、波乱に満ちた人生の始まりです。理想を守り続け、希望に挑む。一つのことをやり抜き、向上し続け、頂を目指し努力しましょう。」と言い聞かせるように語りました。

最後に先生方が卒業生に卒業証書を授与し、卒業生は先生方へ花束を贈って三年間の感謝を伝えました。コロナ禍で協会の支援者の皆さんは卒業式に出席できず、写真を通して卒業生たちとお祝いの気持ちを分かち合いました。卒業生たちの未来が輝かしく、社会に恩返ししてくれるよう願います。

徐芸（昆明代表処職員）
翻訳：熊寛さん
（東京本部インターン生、東洋大学社会学部２年）

25の小さな夢基金

第１１回「夢は叶う」オンライン講演会

ジャーナリスト・徐静波さんを招いて
让人生充满无限可能性
無限の可能性に満ちた人生を

11 回目を迎えた「夢は叶う」講演会、今回は中国人ジャーナリスト徐静波さんを迎え、昆明女子中学校高等部で 6 月 25 日（土）に開催しました。会場には春蕾生約 120 名と教職員が集まり、日本とオンライン中継しました。

徐静波さんは、親元を離れて暮らす春蕾生に「若い時の苦労は恥ずかしいことではない。夢をもって地道に努力すれば必ず社会貢献できる」と激励しました。

日本人のルーツが雲南省に関係するという話から、日本語とトンパ文字、和服に潜む雲南少数民族衣装の色彩など、雲南と日本の深いつながりを説明してくれました。

昆明市女子中学会場

また、雲南省の伝統刺繍や秘境といわれる旅行資源など、日本における雲南のビジネスチャンスについても詳しく言及しました。さらに、多くの雲南省の若者が日本に留学し、相互理解を深めると同時に経済発展に貢献するように呼びかけました。

徐さんが、雲南を応援する立場で、いつでも若者たちを迎える準備ができていると訴えたところ、日本に興味のある生徒たちは大いに盛り上がりました。勉学に励む春蕾生に大きな刺激と勇気を与える講演になりました。

25の小さな夢基金

第16期生「支援決定通知書」をお届け

協会の昆明代表処職員が 6 月 10 日に春蕾生たちが在籍する昆明市女子中学を訪れ、昨年 9 月入学の生徒のうち支援が決まった 72 名に「支援決定通知書」を手渡しました。

通知書を受け取って涙ぐんでいる子、飛び上がっている子、みんな感謝の気持ちでいっぱいでした。これから 3 年間、彼女たちが頑張って成長する姿を記憶に刻みましょう。

雲南省の進学率の実態

中国は日本の皆さんの想像を超える受験大国です。毎年 1000 万人近くが 4 年制大学を受験し、進学率は 40%程度です。高校進学率は全国平均57.96%（2018年）で、日本と変わらないようにも思えますが、実際には2000万人近い大学受験希望者がいます。

先日 NHK の番組に出演した清華大学の学生は「高校時代は３年間、毎日朝 6 時から夜 11 時まで食事以外ずっと勉強していた」と話すなど、受験戦争が厳しい事で知られます。恋愛も禁じられ、「受験勉強ぐらいでは死なない」という言葉があるほどです。受験戦争の加熱ぶりに手を焼いた中国政府は昨年、宿題と塾の負担を減らす強制措置に踏み切りました。

雲南省では毎年 13 万人弱が大学に進学しますが、大学進学率は全国平均以下です。さらに、女子の大学進学率は約 10%ですが、少数民族が住む山岳部では 1% ほどに過ぎません。政府の支援があっても、家庭の経済的な事情で進学をあきらめざるを得ない女子生徒もたくさんいます。

中国全国と雲南省の中、高、大学の在学者数　単位:万人

全国中学校在籍数	2000	雲南省中学校在籍数	60
全国高校在籍数	1159	雲南省高校在籍数	29
全国大学在籍数	464	雲南省大学在籍数	13
		雲南省山岳部出身の大学在籍数	0.13

出所：https://www.zhihu.com/question/29278120／雲南省山岳部出身の大学在籍数は協会の調査によるもの

日中国交正常化５０周年認定事業 × 日本雲南聯誼協会設立 22 周年記念

雲南の風が吹く！少数民族文化を楽しむ 日本初 中国雲南フェスティバル

日中国交正常化 50 周年及び協会設立２２周年を記念し、日本初の「中国・雲南フェスティバル in 東京」が７月 20 日から 28 日まで東京都港区の中国文化センターにて開催しました。このフェスティバルは、雲南省の大自然や少数民族文化を紹介する写真展示をはじめ、雲南省の魅力ある物産の紹介や、数々の楽しいステージイベントが行われ、沢山の来場者の方々に楽しんでいただく事ができました。

初日、20 日の開幕式の始まりには、少数民族の衣装を着た日中の若者が民族舞踏を披露し、開幕式が始まりました。

開幕式には、中国大使館の詹孔朝総領事ら多数の関係者が出席。実行委員長を務めた初鹿野惠蘭理事長が挨拶し、故郷雲南への思い、協会設立から今日までの教育支援活動や少数民族の女子高生支援プロジェクトについて紹介しました。

続いて、詹孔朝総領事をはじめ、外務省アジア大洋州局の斎藤憲二地域調整官、日中友好会館の黄星原中国代表理事、日本アジア共同体文化協力機構の小松道彦理事（協会顧問）より祝辞を頂き、続いて 雲南省人民対外友好協会王宇専務副会長、雲南省帰国華僑連合会万絹副主席、の方々よりビデオによる祝辞を頂きました。開会式の最後には、雲南出身の芦名雪希さんが民族楽器フルスを演奏し会場は、涼やかな音色に包まれました。

7月20日オープニングセレモニーのテープカット

初鹿野惠蘭実行委員長

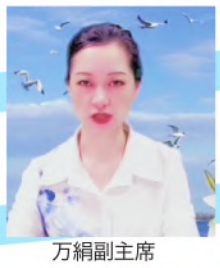
詹孔朝総領事

斎藤憲二地域調整官

黄星原中国代表理事

小松道彦理事

王宇専務副会長


万絹副主席

ボランティアダンサーズの踊りが活気と華を添えました

雲南クイズ大会では奇想天外な答えに笑いが絶えませんでした

中国撮影家協会、日本写真家協会会員、世界華人傑出芸術家 第 36 回太陽賞を受賞。馮学敏氏による雲南の大自然と文化講演

週末の７月２３日（土）、２４日（日）には、特別イベントが多数催され、雲南省の大自然の紹介トークショーを始め、雲南にまつわるクイズ大会、トンパ文字講座、茶芸講座、そして青少年交流イベントなど、参加型の楽しいイベントが沢山行われ、どの講座も座席が満席になるなど盛況となりました。トンパ文字講座では、協会名古屋支部長の近藤先生により、トンパ文字の持つ魅力と、日本語のトンパ文字変換クイズなど１時間にわたる楽しいお話に耳を傾け、また茶芸講座では、プーアル茶の正しい淹れ方を、ビデオと実演を通じて学び、試飲をするなど、参加者の方々には、この一連のイベントを通じて雲南の文化に触れ合う、貴重な体験となったフェスティバルでした。またその他の展示では、迫力のある雲南の世界遺産の数々や少数民族文化を中心に写真紹介や、雲南企業による雲南独自の物産の展示や、協会の支援活動について紹介するパネル展示が行われました。

芦名雪希さんによる民族楽器フルス演奏

青年部によるワークショップ

大盛況の茶芸講座での試飲

会場の運営には、沢山のボランティアの方々にご協力をいただき、来場者の皆様と様々な出会いと、コミュニケーションによりフェスティバルの成功への大きな力となりました。協会よりあらためて御礼申上げます。

日本雲南聯誼協会では今後も、更に多くの方々に雲南省に親しみ楽しんでいただくためにこの様なフェスティバルを開催を行って参ります。

近藤釼一名古屋支部長によるトンパ講座

中高生のボランティアが初参加

総合司会の滝澤崇さんと林媛さん

ベテランボランティアの川口邦夫さん
搬入から搬出まで7日間もお手伝いいただきました

小さいお子さんも
試着に挑戦

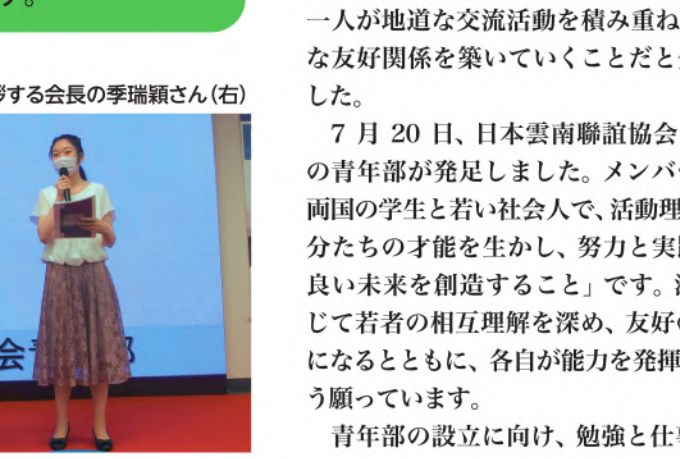
大泉國雄さん（左）と
実行委員の平田栄一さん

開幕式では「日本雲南聯誼協会 青年部」の設立も発表されました。中国側代表の季瑞穎（お茶の水女子大大学院 2 年生）さんが「より多くの若者に我々の活動を知ってもらい、交流と理解の輪を広げるため、青年部を設立することになりました」と設立に至った経緯を紹介。日本側代表の井上正順さんは「日中の民間交流促進のため、まずは若者が率先して両国の文化を学び、みんなで学び合い交流できる場を提供していきたい。今後は定期的にさまざまな交流の場を提供してまいります」と、抱負について発表しました。

また、青年部の発足にあたり、2015 年に協会の人材育成活動でお世話になった、青木村の北村政夫村長よりビデオによる青年部発足に対する祝辞をいただきました。青年部では今後青木村での交流と地域発展を狙い、活動をして行く計画で、中心メンバーは定期的にミーティングを行っています。皆様の温かい応援と支援をお待ちしております。

左から4人目井上正順さん、右、季瑞穎さん

北村政夫、青木村村長



青木村の活動へ向けて記念撮影

■主催：中国雲南フェスティバル実行委員会
■共催：雲南省駐日本（東京）商務代表処
■後援：中華人民共和国駐日本国大使館、外務省、雲南省帰国華僑連合会、雲南省人民対外友好協会、認定 NPO 法人日本雲南聯誼協会、一般財団法人日本アジア共同体文化協力機構（JACCO）、公益財団法人日本中国友好協会、中国文化センター、日本貿易振興機構（JETRO）成都事務所、認定 NPO 法人東京都日本中国友好協会、雲南省飲食美食行業協会、一般社団法人日本雲南総商会、雲南農懇集団有限責任公司、日中商報、吉祥網
■協賛：株式会社アジア太平洋観光社、TIT TRADING 株式会社、中国雲南酒膳坊「過橋米線」、袁暁娟税理士事務所、日中医薬及び新材料イノベーションセンター、一般社団法人 日中友好健康協会、一般社団法人在宅看護センター彩り、新世界教育集団、株式会社ナンセイスチール、株式会社ハブ、株式会社スマイル、株式会社吉梅、株式会社セレクトリン、クス、云南麦隆咖啡股份有限公司、云南爱伲农牧（集团）有限公司、云南同昌号茶叶有限公司、云南圆成号茶业有限公司
■協力：株式会社技術評論社、昆明雲迪行為与健康研究中心、雲南松果経済信息諮詢有限公司、云南省普洱茶协会
■実行委員：実行委員長 初鹿野惠蘭　日本雲南聯誼協会理事長、以下委員 小松道彦 日本アジア共同体文化協力機構理事、日本雲南聯誼協会顧問、黄星原 日中友好会館中国代表理事、秋山岳久 日本アジア共同体文化協力機構事業部会長、林則幸 日本雲南聯誼協会理事、平田栄一 日本雲南聯誼協会、羅玉線 中国文化センターセンター長、井上正順 東京都日中友好協会・青年委員会委員長
■ボランティア ： 平田栄一、川口邦夫、林媛、宋愛平、龐茜、井上正順、銭美琪、季瑞穎、芦名雪希、呉雨桐、方雅娟、叶美香、岸川佳世、曹明秋、屠銀燕、郭麗、山本佳弘、水田知希、松岡柊吾、的場 舞、浅川 莉恵那、佐藤 美奈、松岡 咲希、田本 麗美、佐古 涼輔、山口 大翔、中野 颯亮、劉詩穎、林 依潔、何才明、鮑 嘉蓉、樊秋菊、厳 悦欣、西村 隆太郎、金芸穎、張鐘恒、余 凱文、熊寛（東京本部インターン生）、滝澤崇、董紅俊日中青少年交流部長、寺内明子大宮支部長

未来志向

日本雲南聯誼協会 日中青年部発足

支援活動を次の世代へバトンタッチ

日本雲南聯誼協会「日中青年部」が 7 月 20 日に発足しました。協会の活動を次世帯にバトンタッチし、両国の若者の相互理解を深めるために頑張ります。お茶の水女子大大学院生で青年部中国部長に就任した季瑞穎さんが活動理念や今後の活動についてご紹介します。

青年部発足会議

青年部発足発表会で挨拶する会長の季瑞穎さん（右）

若者の力で交流・理解の架け橋を作る

日本に留学にきて「日中友好の架け橋」という言葉をよく耳にします。また「架け橋」あるいは「絆」という言葉を自ら口にすることもあります。最初「架け橋」という言葉を聞いたとき、私は「意識の高い人が話す言葉」だと思いました。しかし、日中や世界各国の交流に参加して、その真意は、私たち一人一人が地道な交流活動を積み重ね、国際的な友好関係を築いていくことだと分かりました。

7 月 20 日、日本雲南聯誼協会（JYFA）の青年部が発足しました。メンバーは日中両国の学生と若い社会人で、活動理念は「自分たちの才能を生かし、努力と実践でより良い未来を創造すること」です。活動を通じて若者の相互理解を深め、友好の架け橋になるとともに、各自が能力を発揮できるよう願っています。

青年部の設立に向け、勉強と仕事の合間を縫ってみんながアイデアを出し、どう活動するか考えました。対面あるいはオンラインで日々議論を重ね、言葉の壁を乗り越えてお互いの理解を深めています。

青年部は、さまざまな活動を通じて友好的で平等に対話し、偏見や差別のない組織にしていきます。また、日中両国の若者の心をつなぎ、多文化共生社会の実現に貢献したいと思います。青年部の理念や願いをどう具体的し、行動するかが最も重要です。これは、生涯にわたる課題でしょう。

「みんなの力を合わせれば無限大」という言葉を信じ、より多くの若者に我々の活動を理解してもらい、みんなの努力で理念と願いを実現していきます。青年部は、より良い未来を創るためのプラットフォームとして尽力していきます。

日本雲南聯誼協会日中青年部
中国担当部長　お茶の水大学　季瑞穎

ひろげよう支援の輪 新規会員募集中

1か月500円からできる教育支援
雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!
協会を応援してくださる会員を募集します

日本雲南聯誼協会は2000年の設立以来、雲南省の少数民族児童への教育支援を行っています。協力していただける個人、企業、団体の会員を随時募集しています。

正会員	一口　6,000円（500円/月）
賛助会員	一口12,000円（1,000円/月）
法人会員	一口18,000円（1,500円/月）

※法人会員は3口以上でお願いします
※正会員と法人会員には総会での議決権があります。賛助会員に議決権はありませんが、賛助会費は寄付金控除の対象となります。※4月1日から3月31日までを1年度とします。
※年度途中でご入会の場合、初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算します。

認定NPO法人日本雲南聯誼協会へのご寄付は寄付金控除の対象となります

※法人の場合、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で、損金として算入できます。詳しくは最寄りの税務署にお問い合わせください。

新規会員ご紹介（2022年6月～8月ご入会順、敬称略）

【正会員】宋桂玲、木下光弘
【「25の小さな夢基金」里親サポーター】
斎藤裕紀子、林立、増本由紀、谷口茂、桜木愛、李亦謀、林娜

お問い合わせ・お申し込みは……http://www.jyfa.org

青木村へ7年ぶり再訪問

初鹿野理事長ら協会メンバーが 6 月 4 日と 5 日に、長野県青木村を再び訪れ、北村正夫村長と日中青年部の交流事業などについて話し合いました。笹川平和財団元理事長の関晃典さん（会員）に、ご報告いただきました。

「青木村」ってご存知ですか?「どこ?」と思う方が大半でしょうか。長野県の上田城ならご存じの方もいるはず。新幹線上田駅から車で 10 キロほど行くと突然、雄大な自然林が見えてきます。広い田んぼで囲まれた、なんともものどかで感動すら覚えそうな風景、それが青木村です。東急電鉄の創始者、五島慶太氏は青木村の出身で「五島博物館」に功績が展示されています。

でも一番は、その美しい自然になんとも言えない心の安らぎを覚えることです。こんな安らぎを感じたもう一つの場所は中国の雲南省です。青木村を訪れて感じた言葉にできない心の平安は、初めて雲南省を訪問した時と同じ感覚でした。

豊かな自然に恵まれた青木村は日本で有数の蝶の生息地でもあり、森にはワラビ、キノコなどの山菜が豊富です。子供達が夢中になるたくさんの昆虫もいれば、谷川でのアユ釣りには子供も大人も夢中になること間違いなしです。

一風変わった訪問記ですが、一度足を運べば「なるほど」と感じていただけるはずです。こうした自然と共生する日本でありたいですし、私たちの手で守っていかなければいけない、としみじみ感じました。

関晃典
（会員、「25 の小さな夢基金」里親サポーター）

イベント報告

第22回 定時総会開催

第22回定時総会が6月11日に開かれました。遠藤功副理事長が議長、中村有里子理事が司会を務め、以下の議案が原案通り承認されました。

議案

- 第1号議案　令和3年度事業経過報告について
- 第2号議案　令和3年度会計収支決算報告・会計監査報告について
- 第3号議案　令和4年度事業計画案審議について
- 第4号議案　令和4年度会計収支予算案審議について
- 第5号議案　任期満了に伴う理事及び幹事改選について

ご出席いただいた皆様、委任状または書面議決書を提出された皆様に感謝申し上げます。新型コロナ対策としてテーブルの消毒と換気を行い、アルコール消毒と検温にご協力いただきました。

イベント報告

初鹿野理事長が多摩大学で講演

テーマ「夢を形に」

初鹿野理事長が6月29日、多摩大学の経営情報学部（志ゼミ）で講演しました。昨年11月に続き2回目です。

幼い頃より将来故郷の役に立つ人間になろうと心に決めていた理事長は、1996年の麗江地震をきっかけに協会を立ち上げ、「50の小学校プロジェクト」と「25の小さな夢基金」を始めたいきさつや、少数民族の教育支援活動の内容を紹介。「大学生は夢を持つべきで、勇気をもって行動するのが何より重要だ」と訴えました。また、雲南25の少数民族の暮らしとその文化の魅力を写真や動画で紹介。日中の若い世代の相互理解を深めるため、コロナ禍でもオンライン交流を続けていることも紹介しました。講演終了後のアンケートには「夢を持つよう勇気づけられた」「少数民族の貧困状況がよく理解できた」など、さまざまな感想が寄せられました。「アジア人材育成プロジェクトや中国に興味を持った」「20年間の支援活動を聞き、真の「利他心」とは何か理解できた」といった意見がありました。実際に雲南省に行って学生と交流し、夢を語りたいという若者らしい希望もありました。講演は彼らに勇気と夢を与えたようです。コロナ禍が落ち着いたら、若者たちの新たな交流活動を企画できればと思います。

「友情と夢を語り合い、未来を描こう」名古屋からの青年実業家らとの交流会

友情と夢を語り合い、未来を描く交流会が7月3日（日）、7月4日（月）秋葉原と新宿で開かれ、計60名が相互理解を深め、支援をどう広げるかという話題で盛り上がりました。会に参加した名古屋の会員の羅時珍さんから支援活動に対する熱い思いを投稿していただきました。

協会青少年交流部長の董紅俊さんが2ヶ月ほど前、名古屋のある会合で、協会の活動について情熱的に語ったところ、三人の男性が「自分たちも雲南の子供たちのために何かやりたい」と申し出たそうです。三人は、介護事業を手掛ける福祉法人理事長の王洋さん、不動産会社経営の孫海洋さん、日本語学校経営の深田悠輝さんでした。三人とも中国東北部から来日し、様々な苦労の末に成功した青年実業家です。

董さんは三人の真剣なまなざしを見て、初鹿野理事長に報告しました。その後、7月3日、協会の事務所に三名が来訪。私、羅時珍も名古屋から上京し、同席させてもらいました。初鹿野理事長が創立以来の協会の歩みを紹介した後、三人がそれぞれが協会活動に対する考えを語り、協会とともに雲南省の若者の日本留学支援を進めよう、という話になりました。

当日は、秋葉原にある雲南料理店“過橋米線”で、協会と董先生の友人グループ約40名が集まり“友情を語り、夢を語り、未来に目を向けて”という交流会を開きました。作家でジャーナリストの莫邦富さん、写真家の馮学敏さん、作家で詩人の華純さん、《中文導報》編集者兼記者の杜海玲さん、画家の王子江さん、葉霖さんなど各界の著名人と交流できました。もうすぐ中国雲南フェスティバルin東京です、その時にまたお会いしましょう。

（名古屋支部会員 羅時珍）

イベント情報

JAPAN FESTIVAL雲南 開催

日時：2022年11月（2日間の予定）
場所：昆明市内商業施設（予定）
詳細：日中の企業（旅行、自動車、食品、日常雑貨等）30～50社が集まり、民間文化、ビジネス、および貿易の交流活動を行います。主に民間文化交流、中日飲食文化と試食会に伴う営業促進、中日間の旅行広報、オンラインにおけるバーチャル観光、中日民間舞踊披露、小学生向けの自動車科学技術体験など楽しいコンテンツを予定しております。詳細の日程が決まりましたら、協会公式HP、会報誌等にお知らせいたします。

協会イベントに関するお問合わせ

東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～18時）
✉ yunnan@jyfa.org

イベント情報

第17回「雲南省少数民族教育支援」チャリティーゴルフコンペ

参加者大募集

日時：11月9日（水曜日）
場所：津久井湖ゴルフ倶楽部
（神奈川県相模原市緑区三ヶ木492）

詳細は決まり次第に協会HP等にお知らせいたします。

協会イベントに関するお問合わせ

東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～18時）
✉ yunnan@jyfa.org

協会ボランティア通信

名古屋支部特集④

連載 第㉔回 趙青さん

董紅俊 日中青少年交流部長（左）と趙青さん

趙青さんをご紹介します。

趙さんは大連出身、名古屋大学大学院日本言語文化専攻で私の後輩に当たります。現在、中京大学の専任講師として教育、研究活動に携わっています。観察力が鋭く、しかもとてもユーモラスな方で、WeChat の書き込みを読むと、必ずというほど笑い出してしまいます。著書、訳書を何冊も出版されており、私が監修した《諺から学ぶ日本語と中国語》の共同編著者の一人です。

六年ほど前、春蕾生とサポーターの交流を支援するために、私は名古屋で翻訳ボランティアグループ「百合の花」を立ち上げました。百合は名古屋市の花です。虞萍さん、栗田久里子さんなど十数名が手紙の翻訳をしています。時期が大学の期末と重なるので、ただでさえ猫の手も借りたいほど忙しいのに正直しんどいなぁ、と思ったこともあります。しかし趙さんは、たくさん担当するといつも自分から申し出て頑張ってくれます。その献身的な奉仕精神に頭が下がります。趙さん、「百合の花」の皆さん、これからもよろしくね。

董　紅俊
（日中青少年交流部長、会員、名古屋支部ボランティア）

『彩雲の南』へのご意見ご提案をお待ちしています

皆さんにもっと楽しんでいただける『彩雲の南』をつくっていきたいと思いますので、ご意見・ご提案をお願いいたします。

特にデザインやレイアウトに対するご意見や各コーナーのご提案をいただけますと幸いです。お気軽にお寄せください。

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町21-13 1階
認定NPO法人日本雲南聯誼協会
東京本部事務局
✉ yunnan@jyfa.org
までお送り下さい

激しさ増す中国の大学受験 「高考（中国の大学入試統一試験）」で日本語を選ぶ高校生急増

中国では、大学受験に勝ち抜くため、さまざま戦略が打ち出されています。その一つとして、受験科目の外国語を英語ではなく日本語にする高校生が急増しています。「外国語」は英語のほか、日本語、ロシア語、フランス語、ドイツ語、スペイン語から選べます。ある日本語学校が「日本語なら高得点が取れる」と宣伝したのをきっかけに、2016年に1万人程度だった日本語受験生は、2021年に11万人を超えました。

協会は、雲南省の子供たちが一つでも多く夢を持てれば、と受験とは別に日本語の教育支援を行っています。日本語教育に興味のある方はお問い合わせください。子供たちの「夢をかなえる伴走者」になりませんか。

春蕾生への日本語授業

理解は絆を強くする 挑戦！中国百科検定⑩

『彩雲の南』の読者の方々にも受験いただいている「中国百科検定」（日本中国友好協会主催）は第12回試験を12月3日㈯に全国約20都市で実施します。試験会場の詳細や受験申込期間は中国百科検定の公式ウェブサイトのほか、TwitterやWeChat（微信）でも情報を随時発信します。スマホからQRコードをスキャンしていただければ中国百科検定サイトに移動します。

今回はこれまでに出題された中から、入門コースの「初級」と「特級」（記述式）の問題をご紹介します。是非挑戦してみてください。

今回は試験範囲になります『増補分新版』文学・映画の部（3級）からの出題です。

Q 初級 中国の建国記念日10月1日は中国で何と呼ばれているでしょうか。
①清明節　②国慶節　③紀元節　④立国節

Q 特級 人口の33%を少数民族が占める雲南省には、様々な文化を持った少数民族が暮らしています。南端のシーサンパンナ地区で「水かけ祭り」をする民族は何でしょうか。

最難関の「特級」の問題ですが、読者の皆さんには簡単かもしれませんね。

解答　【初級】② 国慶節、【特級】タイ族　たいへんよくできました

中国百科検定ウェブサイト

お問い合わせは…日本中国友好協会　☎03-5839-2140　nicchu@jcfa-net.gr.jp

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻が日本のエネルギー政策や食糧事情を揺さぶり、世界情勢が我々の生活に直結しているのを実感します。インターネットなど先端技術の発達で、世界は今後ますます緊密に連携するでしょう。中国や韓国の過剰なまでの進学競争も、世界規模の混乱を生き残るためのやむを得ない選択なのかもしれません。同時に日本の未来は大丈夫なのかと思ったりします。多様化、複雑化する社会をどう生きるのか、若者共通の課題です。　（編集長・木本一彰）